

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成30年 6月13日現在

機関番号：34316

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16626

研究課題名(和文) 網島梁川を中心とした明治・大正期の宗教思想研究のための基盤構築

研究課題名(英文) Basic research into religious thoughts in connection with Tsunashima Ryosen

研究代表者

古庄 匡義 (FURUSO, Tadayoshi)

龍谷大学・社会学部・講師

研究者番号：40710447

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、網島梁川と彼の思想に共鳴する人々によって形成された共同性が同時代の宗教的共通性とは異なる特質を有することを示すために必要な資料を蒐集し、分析した。その結果、次の三つの研究成果を得た。第一に、岡山県高梁市にある網島梁川の蔵書や遺稿を調査し、資料のリストを作成した。第二に、『回覧集』(網島の思想に共鳴する人々が回覧し、書き連ねたノート)のデジタル画像データを作成し、西田天香、堀米康太郎、魚住折蘆、安倍能成、宮本和吉、小山鞆絵の記述を翻刻し、分析した。第三に、網島梁川や西田天香や『回覧集』の思想に関する論文を4本公刊した。

研究成果の概要(英文)：This research collected and analyzed materials for demonstrating how the religious group formed by Ryosen Tsunashima, and those who sympathized with his thought, differed from other religious groups in the later Meiji era. First, we investigated his collection of books and manuscripts in Takahashi city, Okayama prefecture, and developed a complete list of these items. Second, we created digital images of Kairan-shu --seven notebooks circulated by his sympathizers-- which contain a wide range of thoughts; we then reprinted and analyzed writings of Tenko Nishida, Kotaro Horigome, Setsuro Uozumi, Yoshishige Abe, Wakichi Miyamoto, and Tomoe Oyama from Kairan-shu. Third, we published four papers discussing the thought of Ryosen Tsunashima, Tenko Nishida, and Kairan-shu itself.

研究分野：宗教哲学

キーワード：網島梁川 『回覧集』 宗教哲学 明治 宗教学 西田天香 翻刻

1. 研究開始当初の背景

まず、綱島梁川と「梁川会」、そして『回覧集』について概説する。綱島梁川(1873～1907)は、明治・大正期の宗教や思想に影響を与えた思想家である。彼は結核の闘病生活のなかで神秘体験を経験し、この体験を、キリスト教信仰を軸にしつつ、浄土教や禅、西洋哲学を取り込んで言説化する。彼の言説は、『新人』などの雑誌に掲載され、宗教的関心をもつ人々を惹きつけた。その結果、綱島の死の直前から日本各地に「梁川会」が形成され、彼の死後も西田天香や安倍能成をはじめとする多くの人々が綱島を顕彰し続けた。メンバーには仏教者も多数含まれており、宗教・宗派によらず、宗教的な思想を自由に論じ合った。また、綱島の死の1ヵ月前から約3年間『回覧集』が書き綴られた。これは、全国各地の「梁川会」のメンバーなどが、宗教的な問題提起から身辺雑記までを書き連ねた回覧ノートである。綱島への思慕を軸に自由な形式で書かれており、ときには絵画や写真、綱島からの私信なども貼り付けられた。

このような「梁川会」および『回覧集』に関する本研究は、明治・大正期の宗教的な共同性の研究に新たな資料を提供するとともに、この時期の宗教的な共同性の多様なあり方を描き出すための重要な視点を提供するものである。

近年の明治以降の宗教に関する研究は、著名な宗教者の思想研究だけでなく、宗教者が主宰する集いや雑誌が形成する宗教的な共同性についての研究も重視している。たとえば、内村鑑三を発端とする無教会主義者たちの「紙上の教会」(赤江 2013)、清沢満之と弟子たちの浩々洞や雑誌『精神界』(山本 2011)、近角常観が「求道会館」にて行った一連の活動(岩田 2014、碧海 2014)などが形成する共同性である。

これらの共同性が特定の宗教・宗派に基づいているのに対し、本研究で扱う「梁川会」や『回覧集』が形成する共同性は、特定の宗教・宗派によらない、ゆるやかで自由な共同性、そして自由に思いを述べられる雰囲気である。もちろん、内村や清沢、近角に由来する共同性にも宗教的な多様性や自由は存在するが、「梁川会」や『回覧集』には宗教・宗派の縛りのない「宗教的」共同性が存在する。よって、綱島を軸とした共同性の解明は、明治・大正期の宗教的な共同性の多様なあり方を解明するための新たな視座を提供するものとなる。

しかも、『回覧集』の執筆者には、内村鑑三や浩々洞と関係をもつ者もあり、浩々洞の暁鳥敏に関する率直な感想なども記されている(川合 1989)。したがって、本研究は、明治・大正期の宗教的な共同性の研究に新たな資料を提供することにもなる。

しかし、研究開始当初までの綱島研究は、綱島自身の思想に関するものがほとんどであった。そして、綱島の影響で展開した思想や共同性の研究を行うことは、当時困難であった。なぜなら、基本的な研究資料や文献が整備されておらず、次の a～c の課題が存在していたからである。

a. 綱島が明治・大正期の宗教や思想に与えた影響を解明するための資料が未整備である。

綱島に関する膨大な資料、綱島が所有していた書籍などは、保存されているにもかかわらず、十分整理されていなかった。この中には、次項で述べる『回覧集』など、綱島が後世に与えた影響を解明するために必要不可欠の文献も含まれる。

b. 『回覧集』の翻刻がないため、綱島を中心とした宗教的な共同性の全容が把握できない。

現存する『回覧集』の概略については、『回覧集』の発見者の一人である川合道雄が報告している(川合 1989)。また、『回覧集』の個々の執筆者に関心をもつ研究者が、『回覧集』の現物に触れて、その執筆者に関する部分をまとめた研究はある(羽原 2009 など)。しかし、『回覧集』を中心とする宗教的な共同性の全容を把握するためには、『回覧集』を翻刻し、記述全体を参照できるようにする必要がある。

また、「梁川会」の研究は、『回覧集』発見(1982年)以前の研究(川合 1973 など)しかなく、「梁川会」の全容解明には『回覧集』の翻刻が必須である。なぜなら、『回覧集』には、「梁川会」のメンバーによる「梁川会」に関する記述が多数含まれるからである。

c. 綱島の影響で展開した明治・大正期の宗教や思想の全容が解明されていない。

綱島と同時代の人々は、綱島の見神体験をさまざまな仕方で論評したが、これらの論評は、綱島の生前に既に書籍にまとめられている。しかし、綱島が明治から大正にかけて宗教界や思想界に及ぼした影響を総合的に分析した研究は研究開始当初には存在していなかった。

2. 研究の目的

そこで、本研究の期間内には、綱島を軸に形成された共同性の研究のための資料的基盤の確立、およびこの共同性の実証的な解明を目的とし、a～cの課題に対しA～Cのように取り組んだ。

A. 綱島梁川関係の資料を整理し、部分的な分析を進める。

本研究の期間中には綱島関係の膨大な資

料の総合的な分析は不可能であるため、まずは資料の概要が誰にでもわかるように資料を整理し、資料を部分的に用いて研究を進めることを目指した。

B. 『回覧集』全7巻の文字部分を翻刻し、内容を分析する。

文章以外にも写真や絵画など、自由な形式で執筆された『回覧集』は、それ自体当時の宗教的な共同性のあり方を体現するものとして貴重であり、できるだけ現物に近い形で出版することが望ましいが、まずは文章部分を翻刻し、記述内容を誰でも読めるようにする必要がある。そのうえで、「梁川会」の全容の解明と、『回覧集』が形成する共同性の解明を行う。

C. 網島梁川に影響された思想家の文献蒐集と、明治・大正期の思想に対する網島の影響の解明

網島の影響を強く受けて、明治から大正にかけて展開した宗教・思想の文献を蒐集し、明治・大正期の宗教や思想に対する網島の影響を明らかにする。

3. 研究の方法

A. 「梁川文庫」および網島「資料室」の調査、資料のリスト化および部分的分析

岡山県高梁市の高梁市立図書館の「梁川文庫」および高梁市有漢生涯学習センター内の網島梁川資料室（以下「資料室」と略記）に網島関係の資料が未整理のまま保存されている。

そこで、「梁川文庫」および「資料室」の資料のリストを作成する。網島の遺した図書については書き込みの状況などについても調査する。

B. 『回覧集』の翻刻、記述内容に関する分析と事実関係の調査

『回覧集』の全ページをデジタルカメラによって撮影し、『回覧集』の画像データを作成し、そのデータを基に翻刻作業を行う。

そして、翻刻をしながら、執筆内容を吟味し、執筆者や事実関係に関する調査を行い、翻刻に対する注釈や索引を作成する。

C. 網島から同時代の思想家への影響の解明

網島の宗教体験に批判的だった思想家や、網島の思想に共鳴する思想家の議論を分析することによって、網島が明治・大正期の宗教や思想に与えた影響を明らかにする。

特に、次の3点に着目して分析する。第一高等学校から東京帝国大学に進学して哲学を修めた魚住折蘆、安倍能成、宮本和吉、小山鞆絵を取り上げ、網島の宗教思想が哲学的にどのような形で受容されたのかを解明

する。井上哲次郎らの網島の宗教体験言説に対する批判と、網島の思想とのズレを捉える。網島の思想を受け継いでさまざまな実践を行っていることと捉えられることのある西田天香の思想と網島の思想が、実際のところどの程度つながりを保持しているのかを明らかにする。

4. 研究成果

A. 網島梁川関係の資料整理と分析

高梁市立図書館の「梁川文庫」に所蔵されているすべての図書のリストを作成し、図書への書き込み状況なども調査することができた。

また、「資料室」に所蔵されている図書および資料のリストを秋葉将氏よりご提供いただき、それをもとに図書の書き込みや『梁川全集』に未収録の資料などを調査することができた。

B. 『回覧集』の翻刻と内容分析

『回覧集』のデジタルデータを入手し、翻刻に取り組んだ。ただ、すべての文字部分を翻刻することはできなかった。『回覧集』の文字数が想像以上に多く、無名の方も含めて40人以上が執筆しているため、翻刻作業自体も終わることができず、執筆者や事実関係に関する調査も十分行うことができなかった。H30年度以降も継続して翻刻を行い、『回覧集』を早期に出版することを目指す。

研究期間内には、特定の執筆者について翻刻と思想の分析を行い、論文として公表した。『回覧集』での西田天香と堀米康太郎の議論を翻刻・分析することで、網島の思想を受け継ぎながら実践を行っていた西田が『回覧集』同人に与えていた多大なる影響を解明した（論文、 ）。また、旧制第一高等学校から東京帝国大学に入学し哲学を学んだ魚住折蘆、安倍能成、宮本和吉、小山鞆絵の執筆内容を翻刻することで、哲学を専攻する学生が網島を思想的に受容する仕方の多様性を解明しつつある（論文、 ）。

C. 網島に影響を受けた思想家の分析

まず、神との合一を楽しみつつも存立するとされる網島の「個人格」概念を解明することによって、明治の宗教思想における網島の位置づけを明確にした（論文、 ）。そのうえで、網島の「見神の実験」をめぐる同時代の思想家の言説と網島の思想との関係（学会発表、 ）や、網島梁川と西田天香の思想の間にあるズレについて分析を進めることができた（学会発表、 ）。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計4件)

古荘匡義「『回覧集』のなかの西田天香(2):堀米康太郎への影響」、『光』(一燈園編)第1165号、2018年、pp.20-30。【査読なし】

古荘匡義「『回覧集』のなかの西田天香(1):堀米康太郎との議論から」、『光』(一燈園編)第1164号、2018年、pp.21-31。【査読なし】

古荘匡義「明治宗教・倫理思想における綱島梁川の「個人格」の意義」、『宗教と倫理』(宗教倫理学会編)第17号、2017年、pp.44-58
<http://jare.jp/admin/wp-content/uploads/2018/01/furuso-religion-ethics17.pdf>【査読あり】

古荘匡義「『回覧集』の翻刻と分析 綱島梁川による煩悶青年への影響に着目して」、『龍谷大学社会学部紀要』(龍谷大学社会学部編)第51号、2017年、pp.45-54【査読なし】

〔学会発表〕(計3件)

古荘匡義「宗教哲学の伝道 綱島梁川による宗教体験の言説化をめぐる」、『日本宗教学会第76回学術大会』、2017年9月16日、東京大学(東京都・文京区)

古荘匡義「宗教体験の言説化とその変奏 綱島梁川から西田天香へ」、『日本宗教学会第75回学術大会』、2016年9月13日、早稲田大学(東京都・新宿区)

古荘匡義「宗教をめぐる明治の論争における綱島梁川の位置」、『日本宗教学会第74回学術大会』、2015年9月5日、創価大学(東京都・八王子市)

6. 研究組織

(1)研究代表者

古荘 匡義 (FURUSO, Tadayoshi)

龍谷大学・社会学部・講師

研究者番号: 40710447